



# 堺市博物館所蔵品の企画展におけるデジタル・体験型展示 「源氏物語を見る」



## DATA

- 主な連携先・メンバー  
堺市博物館学芸員 宇野千代子氏
- 活動地域  
大阪府堺市
- 活動期間  
2018年度
- 活動資金  
堺市と関西大学との地域連携事業

## 活動の目的

堺にゆかりの深い所蔵品を中心とした堺市博物館の企画展に、デジタル展示・体験型展示のコンテンツやアプリを提供することにより、堺の歴史・文化への一層の興味と関心を喚起する一助となることを目指す

## 連携にいたる経緯

2014・2015年度に堺市内の町家『山口家住宅』で実施した、堺の歴史・文化をテーマにしたメディアアート展の経験や、岡山市の林原美術館が所蔵する絵画の高精細デジタル化による企画展示の経験を活かし、堺の歴史・文化の魅力を発信することで、市民に地域への誇りを高めてもらうことが期待できるとして実施することとなった。

## 活動内容

堺市博物館特別展「土佐光吉-戦国の世を生きたやまと絵師-」の協力イベントとして実施。同館所蔵の土佐派 源氏物語図色紙(28面)を高精細デジタル画像として撮影し、グランフロント大阪において大規模投影展示を行った。本特別展企画者である同館学芸員 宇野千代子氏による講演会を開催。8面タイルディスプレイに表示された鮮やかな拡大画像は大変好評であった。イベント翌日から約1か月半にわたり源氏絵の映像コンテンツとクイズアプリを展示した。

その後博物館内において、源氏物語図色紙の精緻な描写から垣間見える大和絵の魅力を伝える映像コンテンツ・クイズアプリ・立体パズルを展示。来場者に自由に鑑賞、体験してもらえるようにした。



## 活動の成果

- 1 鑑賞対象となる展示対象の見どころ(着目点)を教示する映像コンテンツとクイズアプリを用いた展示方法は、絵画の鑑賞支援に有用であるとの感触を得ることができた
- 2 古典文学として源氏物語を知っている方でも、大和絵として鑑賞した方は少なく、「源氏物語を見る」とした企画コンセプトは狙い通りであった

## 今後の課題・目標

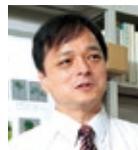
- 1 対象の見どころを教示する映像制作手法を、他の美術作品や展示資料の学習支援に活用する
- 2 クイズアプリで楽しむことだけでなく、その学習効果についても実証的な検証を行っていく

## 教員紹介



■ 総合情報学部 教授  
堀 雅洋  
Masahiro Hori

情報をわかりやすく伝えるためのデザイン手法、および社会環境での学び(博物館学習、情報モラル学習、防災学習など)を支援するアプリやコンテンツに関する研究に取り組んでいる。



■ 総合情報学部 教授  
林 武文  
Taketumi Hayashi

専門は視覚認知情報処理。視覚を中心とした人間の情報処理メカニズムを解明し、ヒューマンインタフェースにおける情報の提示方法を明らかにすることを目的に研究を行っている。



■ 社会学部 教授  
与謝野有紀  
Arinori Yosano

地域活性化に対する社会的信頼の機能を実践的に明らかにする研究を行う。膨大な数のプロジェクトを統括し、安全安心や過疎化が進む地方のあり方など、社会的課題の解決に全精力を持って取り組む。